



Snapshot コピーへの接続

Snapdrive for Unix

NetApp
October 04, 2023

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/snapdrive-unix/aix/concept_how_the_snapdrivesnap_connect_command_works.html on October 04, 2023. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

Snapshot コピーへの接続	1
SnapDrive snap connect コマンドの仕組み	1
ミラーリングされたストレージシステム上の Snapshot コピーを接続します	2
Snapshot 接続および Snapshot のリストア処理	2
Snapshot コピーを接続する場合のガイドラインを次に示します	3
SnapDrive snap connect コマンドの使用に必要な情報	3
LUN を含む Snapshot コピーへの接続	9
LUN 以外のストレージエンティティの Snapshot コピーへの接続	10
LUN 以外の共有ストレージエンティティの Snapshot コピーへの接続	13

Snapshot コピーへの接続

あるホストから別のホストに Snapshot コピーを接続できます。

SnapDrive for UNIX では、ホスト上の別の場所から Snapshot コピーにホストを接続できます。この新しい場所は、Snapshot コピーを作成したホスト（元のホスト）または別のホスト（元のホスト以外）に設定できます。

新しい場所に Snapshot コピーをセットアップできるので、Snapshot コピーを別のメディアにバックアップしたり、ディスクグループのメンテナンスを実施したり、データの元のコピーを中断せずに Snapshot コピーデータにアクセスしたりできます。

このコマンドを使用すると、次のいずれかを含む Snapshot コピーにホストを接続できます。

- LUN
- LUN 上に直接作成されるファイルシステム
- LUN 上に作成されたディスクグループ、ホストボリューム、およびファイルシステム
- NFS ディレクトリツリー
- 共有ストレージシステム上のディスクグループ、ホストボリューム、およびファイルシステム

SnapDrive snap connect コマンドの仕組み

SnapDrive snap connect コマンドを使用すると ' 指定したエンティティのストレージのクローンが作成され ' ホストにインポートされます

- LUN (「-lun」) を含む Snapshot コピーを指定すると、SnapDrive for UNIX はその LUN の新しいコピーをホストにマッピングします。SnapDrive snap connect コマンドを使用して ' 他のストレージ・エンティティ (-vg' -dg' -fs'-lvol'または '-hostvol') と同じコマンド・ライン上の LUN を指定することはできません
- LUN に直接存在するファイルシステムを指定すると、SnapDrive for UNIX によって LUN がホストにマッピングされ、ファイルシステムがマウントされます。
- 「snap connect」コマンドで相対パス名としてソースマウントポイントを指定した場合、SnapDrive for UNIX は CLI で指定されたデスティネーションマウントポイントを無視し、「source_mount_point_<N>」という形式の内部命名規則を使用してデスティネーションマウントポイントに名前を付けます。
- ディスク・グループを含むスナップショット・コピー ' またはディスク・グループの一部であるホスト・ボリュームまたはファイル・システムを指定する場合は ' SnapDrive snap connect コマンドを使用してターゲット・ディスク・グループ全体を接続します接続を確立するために、SnapDrive for UNIX はターゲットディスクグループのすべての論理ボリュームを再アクティブ化し、論理ボリューム上のすべてのファイルシステムをマウントします。
- 「snap connect」コマンドで「autoname」オプションを指定すると、ホストボリュームとファイルシステムの名前は常に変更されます。ディスクグループの名前は、ホストにすでに存在する場合にのみ変更されます。
- NFS ディレクトリ・ツリーを含む Snapshot コピーを指定すると、SnapDrive for UNIX により、NFS ディレクトリ・ツリーを含む FlexVol ボリュームのクローンが作成されます。次に、SnapDrive for UNIX がボリュームをホストに接続し、NFS ファイルシステムをマウントします。ディレクトリツリー内で、SnapDrive for UNIX を使用すると、Snapshot コピーの作成後に作成した新しい NFS ファイルまたはディ

レクトリがすべて削除されます。「snapmirror-nfs-removedirectories」設定オプションが on に設定されている場合、FlexVol for UNIX は、接続する NFS ディレクトリ外のファイルまたはディレクトリを SnapDrive ボリュームから削除します。

- NFS ディレクトリ・ツリーを含む Snapshot コピーを -readonly オプションを使用して接続する場合、SnapDrive for UNIX は、クローンを作成することなく、ディレクトリの Snapshot コピーを直接マウントします。SnapDrive snap connect コマンドを使用して 'NFS 以外のエンティティと同じコマンド・ライン上の NFS マウントポイントを指定することはできませんつまり '-vg'-dg'-fs'-lvol'-hostvol' のいずれかのオプションを使用します



vFiler 環境では '-split' オプションを使用したスナップ接続操作は Data ONTAP 7.3 以降でサポートされています

ミラーリングされたストレージシステム上の Snapshot コピーを接続します

ミラーリングされたストレージシステム上の Snapshot コピーの場合、ソースストレージシステムとデスティネーションシステムの Snapshot コピーを接続できます。

ミラーリングされたストレージシステム上に Snapshot コピーを作成すると、その Snapshot コピーが作成されたソースシステムからデスティネーション（ミラーリングされた）ストレージシステムに、Snapshot コピーが自動的にレプリケートされます。SnapDrive for UNIX では、ソース・ストレージ・システム上の Snapshot コピーを接続できます。デスティネーションストレージシステム上の Snapshot コピーを接続することもできます。

複数のストレージエンティティを接続する

複数のストレージエンティティを含む Snapshot コピーを接続することができます。

複数のデスティネーションストレージシステムに存在するストレージエンティティを含む Snapshot コピーを接続するには、次の要件を満たす必要があります。

- コマンドプロンプトで指定するストレージエンティティは、単一のストレージシステムまたは HA ペア上に存在する必要があります。
- ソースストレージシステムのボリューム名は、デスティネーションストレージシステムのボリューム名と一致している必要があります。
- snapdrive.conf ファイルの `snapmirror-dest-mmultiple -fileervolumes-enabled` 変数を 'on' に設定する必要があります

1 つのストレージシステムまたは HA ペア上のストレージエンティティを 1 つのコマンドで接続できます。

Snapshot 接続および Snapshot のリストア処理

Snapshot コピーは、Snapshot コピーへの接続時に情報のクローンを作成します。

Snapshot リストア処理とは異なり、Snapshot 接続処理では、ホストエンティティを構成する LUN の既存の内容が Snapshot コピーの内容で置き換えられることはありません。情報のクローンを作成します。

接続が確立されると、Snapshot 接続処理と Snapshot リストア処理の両方で同様の処理が実行されます。

- Snapshot 接続処理では、ストレージエンティティの論理ボリュームがアクティブ化され、ファイルシステムがマウントされます。必要に応じて、ホストファイルシステムテーブルにエントリを追加することもできます。
- Snapshot のリストア処理を実行すると、ストレージエンティティの論理ボリュームがアクティブ化され、ファイルシステムがマウントされ、Snapshot コピーで保持されていたホストファイルシステムのマウントエントリが適用されます。

Snapshot コピーを接続する場合のガイドラインを示します

Snapshot コピーに接続するときは、次のガイドラインに従ってください。

- SnapDrive snap connect コマンドは、SnapDrive 4.2 for UNIX で作成された Snapshot コピーに対してのみ機能します。
- 元のホスト上では、以前のバージョンの SnapDrive for UNIX で作成された Snapshot コピーの接続とリストアが SnapDrive for UNIX でサポートされます。
- NFS ディレクトリ・ツリーへの読み取り / 書き込みアクセスの場合、SnapDrive snap connect コマンドは Data ONTAP FlexVol ボリューム機能を使用するため、Data ONTAP 7.3 以降が必要です。Data ONTAP 7.1 を使用した設定では、NFS ファイルやディレクトリツリーを接続できますが、読み取り専用アクセスが提供されます。
- SnapDrive 接続処理中にコンフィギュレーション変数の `enable-split-clone` を on または 'Sync に設定し 'Snapshot 切断処理中に off' を設定した場合 'UNIX 用 は Snapshot コピーに存在する元のボリュームまたは LUN を削除しません
- Data ONTAP 7.2.2 の構成オプション vfiler の値を設定する必要があります。vFiler ユニット内のボリュームまたは LUN の Snapshot コピーに接続するには 'vol_clone_zapi_allow' を "" に設定します
- ホスト構成が異なるホストでは、Snapshot 接続処理はサポートされていません。
- Data ONTAP ではルート・ボリュームのクローンを作成できないため、物理ストレージ・システムまたは vFiler ユニットのルート・ボリュームへの接続に使用する SnapDrive snap connect コマンドは失敗します。

SnapDrive snap connect コマンドの使用に必要な情報

Snapshot コピーに接続するには、ストレージエンティティの種類を確認し、NFS ディレクトリツリーを使用して Snapshot コピーを Data ONTAP 7.3 構成に接続します。

次の表に、SnapDrive snap connect コマンドを使用するときに入力する必要がある情報を示します。



「snap connect」操作には、Veritas を使用する AIX 上で vximport を実行するための Storage Foundation Enterprise ライセンスが必要です。

要件 / オプション	引数
<p>Snapshot コピーの接続に使用するストレージエンティティのタイプを決定し、そのエンティティの名前を適切な引数で指定します。これは <code>"src_fspect"</code> 引数の値です</p> <ul style="list-style-type: none"> LUN の Snapshot コピーを接続する場合は、指定した LUN が SnapDrive for UNIX で接続されます。コマンド・ラインで <code>-lun</code> オプションを使用するには <code>-vg'-dgd'-fs'-lvol'-hostvol'</code> オプションを指定します。LUN の省略形は、<code>lun_name</code> または <code>qtree_name / lun_name</code> の形式で指定できます。 LUN に直接作成されたファイルシステムの Snapshot コピーを接続する場合、SnapDrive for UNIX はファイルシステムを含む LUN を接続します。 ホストボリュームまたはファイルが指定されたディスクグループの Snapshot コピーを接続すると、引数がストレージシステム上の一連のディスクグループに変換されます。SnapDrive for UNIX では、エンティティが含まれているディスクグループ全体を接続します。これは、エンティティがホストボリュームまたはファイルシステムである場合も同様です。 NFS ファイルシステムの Snapshot コピーを接続すると、引数は NFS ディレクトリツリーに変換されます。SnapDrive for UNIX では、ボリュームの FlexClone が作成され、Snapshot コピーで指定されていないディレクトリツリーが削除され、NFS ディレクトリツリーが接続されてマウントされます。NFS マウント・ポイントを指定する場合は '同じコマンド・ラインで非 NFS エンティティ' (<code>-vg'-dgd'-fs'-lvol'-hostvol</code>) を指定することはできません <div data-bbox="212 1430 269 1486">  </div> <p>SnapDrive for UNIX では、マウントポイントレベルでのシンボリックリンクはサポートされていません。</p>	<p>LUN (<code>-lun_file_spec_</code>)</p>
<p>_ LUN の略称。 _</p>	<p><code>s_lun_name_</code> には <code>'snapname_long_snap_name_'</code> に存在する LUN を指定します。短縮形の <code>LUN_name</code> が必要です。ストレージシステムまたはストレージシステムボリュームの名前は指定できません。<code>d_lun_name</code> は、LUN が接続されている名前を指定します。省略形の「<code>LUN_name</code>」は必須です。ストレージシステムまたはストレージシステムボリュームの名前は指定できません。「<code>d_lun_name</code>」を指定する必要があります</p>

要件 / オプション	引数
ディスク・グループ (dg_file_spec_) またはボリューム・グループ (g-vg_file_spec_)	_name には、ディスクまたはボリュームグループの名前を指定します
ファイルシステム (-fs_file_spec_)	_ ファイルシステムの _ 名
ホスト・ボリューム (-hostvol_file_spec_) または論理ボリューム (-lvol_file_spec_)	_ ホスト名または論理ボリューム _
<p>NFS ディレクトリツリーを使用して Data ONTAP 7.3 構成に Snapshot コピーを接続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Data ONTAP 7.3 以降のバージョンの Data ONTAP と従来の (FlexVol ではなく) ボリュームを使用する設定の場合、このオプションを指定して、Snapshot コピーを読み取り専用アクセスで接続する (必須) 必要があります。 • Data ONTAP 7.3 以降および FlexVol ボリュームを使用している構成では、SnapDrive for UNIX が自動的に読み取り / 書き込みアクセスを提供します。このオプションは、アクセスを読み取り専用に制限する場合にのみ指定します (オプション)。 	<ul style="list-style-type: none"> • 読み取り専用
読み取り専用アクセス権の設定 _	<p>オプション：ストレージエンティティが接続されたあとにターゲットエンティティにアクセスする際に使用する名前を指定します。SnapDrive for UNIX では、この名前を使用してデスティネーションエンティティが接続されます。これは 'dest_file_spec_' 引数です</p> <p>この名前を省略した場合 'snap connect コマンドは 'src_fspect' に指定した値を使用します</p>
ターゲットエンティティの名前	ddest_file_spec

要件 / オプション	引数
<p>オプション：デスティネーションストレージエンティティの名前を指定します。この情報を 'dest_fspect/src_fspect_' ペアの一部として含めた場合は 'ここに入力する必要はありません'</p> <p>デスティネーション・ストレージ・エンティティの名前を指定するには '-dest_fspect/src_fspect_' ペアの一部でない場合に '-destxx' オプションを使用しますたとえば '-fs' オプションでは 'デスティネーション・マウント・ポイントのみを指定するため '-ddestdg' オプションを使用してデスティネーション・ディスク・グループを指定できます</p> <p>ターゲット・ディスク・グループ内のエンティティの接続に必要な名前を指定しない場合 'SnapDrive snap connect' コマンドはソース・ディスク・グループから名前を取得します</p> <p>コピー先ディスクグループのエンティティを接続するために必要な名前を指定しない場合、「snap connect」コマンドはソースディスクグループから名前を取得します。その名前を使用できない場合 'コマンド・プロンプトに '--autoname' を指定しない限り '操作は失敗します</p>	<p>デスティネーション・ディスク・グループ（-destddg）またはデスティネーション・ボリューム・グループ（-destvg）</p>
<i>dgname</i>	デスティネーション論理ボリューム (-ddestlv') またはデスティネーション・ホスト・ボリューム（-desthv）
<i>lvname</i>	Snapshot コピーの名前を指定します。ストレージ・システム名、ボリューム名、Snapshot コピー名を入力する場合は、長い形式の名前を使用します。
Snapshot コピー名（snapname）	<i>long_snap_name</i>
「-nopersist」	～

要件 / オプション	引数
<p>オプション：ホストファイルシステムテーブルにエントリを作成せずに、 Snapshot コピーを新しい場所に接続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • -nosist` オプションを使用すると ' ホスト・ファイル・システム・テーブルにエントリを作成することなく ' スナップショット・コピーを新しい場所に接続できます SnapDrive for UNIX のデフォルトでは、永続マウントが作成されます。つまり、次のことが可能です。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ AIX ホストで Snapshot コピーを接続すると、 SnapDrive for UNIX によってファイルシステムがマウントされ、ホストのファイルシステムテーブルにそのファイルシステムを構成する LUN のエントリが作成されます。 ◦ NFS ディレクトリ・ツリーを含む Snapshot コピーを接続する場合には 'nosist' を使用できません 	`-reserve
-noreserve `	~
<p>オプション：スペースリザベーションを作成するかどうかに関係なく、 Snapshot コピーを新しい場所に接続します。</p>	igroup 名 (「 -igroup 」)
<i>ig_name</i>	<p>オプション： igroup 名を指定する代わりに、デフォルトの igroup を使用することを推奨します。</p>
— 自動展開	~

要件 / オプション	引数
<p>ボリューム・グループへの接続時に入力する必要のある情報量を短縮するには ' コマンド・プロンプトに <code>-autoconfigure</code> オプションを含めますこのオプションを使用すると、ボリュームグループ内の論理ボリュームまたはファイルシステムのサブセットにのみ名前を付けることができます。その後、ディスクグループ内の残りの論理ボリュームまたはファイルシステムへの接続を拡張します。このようにして、各論理ボリュームやファイルシステムを指定する必要はありません。SnapDrive for UNIX では、この情報を使用してデスティネーションエンティティの名前を生成します。</p> <p>このオプションでは、コマンドプロンプトで指定した各ディスクグループと、グループ内のすべてのホスト LVM エンティティが環境に設定されます。<code>-autodomexpand</code> オプション（デフォルト）を使用しない場合は ' ディスク・グループ全体を接続するために ' そのディスク・グループに含まれるすべての影響を受けるホスト・ボリュームとファイル・システムを指定する必要があります</p> <div data-bbox="167 1003 220 1056">  </div> <div data-bbox="277 926 758 1129"> <p>入力した値がディスクグループの場合は、ディスクグループの接続先を SnapDrive for UNIX が認識しているため、すべてのホストボリュームまたはファイルシステムを入力する必要はありません。</p> </div> <p>このオプションを指定する場合は、<code>-autoname</code> オプションも指定することを推奨します。<code>-autostoexpand</code> オプションで LVM エンティティのコピー先を接続する必要があるが ' 名前がすでに使用されている場合は '<code>-autoname</code>' オプションがコマンド・プロンプトにない限り ' コマンドは失敗します</p>	<p>コマンドプロンプトで参照されるすべてのディスクグループ（ホストボリューム自体またはファイルシステムの指定）で LVM ホストボリュームの一部を指定していないと、<code>-autoconfigure</code> を省略した場合、コマンドは失敗します。</p>
<p><code>-autoname</code></p>	<p>~</p>

要件 / オプション	引数
<p>--autorename' オプションを指定せずに --autoexpand オプションを使用すると 'LVM エンティティのコピー先のデフォルト名が使用されている場合 'snap connect コマンドは失敗します-autorename' オプションを指定すると 'UNIX 用 SnapDrive は' デフォルト名が使用中のときにエンティティの名前を変更しますつまり、コマンドプロンプトで -autorename オプションを指定すると、必要な名前がすべて使用可能かどうかに関係なく、 Snapshot 接続操作が続行されます。</p> <p>このオプションでは、コマンドプロンプトで指定したすべてのホスト側エンティティを環境します。</p> <p>コマンド・プロンプトに --autorename' オプションを含めると 'そのオプションを含めない場合でも -autoconfigure オプションを意味します</p>	「-split」
~	Snapshot 接続処理と Snapshot 切断処理の際に、クローンボリュームまたは LUN をスプリットできます。
「トップ」	~

LUN を含む Snapshot コピーへの接続

SnapDrive snap connect コマンドを使用すると、LUN を含む Snapshot コピーに接続できます。

手順

1. 次のコマンド構文を入力して、LUN を含む Snapshot コピーに接続します。

```
* SnapDrive snap connect -lun_s_lun_name d_lun_name d_[[-lun]s_lun_name
d_lun_name d_lun_name - snapname_long_snap_name_[-igroup_ig_name_[ig_name...]] [-split]*
```



s_lun_name および d_lun_name の形式は、lun_name または qtree_name / lun_name です。

SnapDrive for UNIX では、指定した LUN のクローンを作成し、新しい場所に接続します。

次の例では、hornet/vol/vol1/tuesdaysnapshot 内の LUN mylun1 を mylun1copy に接続します。

```
# ./snapdrive snap connect -lun mylun1 mylun1copy -snapname
hornet:/vol/vol1:tuesdaysnapshot
connecting hornet:/vol/vol1/mylun1:
LUN copy mylun1copy ... created
(original: hornet:/vol/vol1/mylun1) mapping new lun(s) ... done
discovering new lun(s) ... done
```

次の例では、mylun1 と mylun2 という 2 つの LUN を、それぞれ mylun1copy と mylun2copy に接続します。

```
# ./snapdrive snap connect -lun mylun1 mylun1copy -lun mylun2
mylun2copy -snapname hornet:/vol/vol1:tuesdaysnapshot
connecting hornet:/vol/vol1/mylun1:
LUN copy mylun1copy ... created
(original: hornet:/vol/vol1/mylun1)
mapping new lun(s) ... done
connecting hornet:/vol/vol1/mylun2:
LUN copy mylun2copy ... created
(original: hornet:/vol/vol1/mylun2)
mapping new lun(s) ... done
discovering new lun(s) ... done
```

LUN 以外のストレージエンティティの Snapshot コピーへの接続

lun snap connect コマンドを使用すると、SnapDrive 以外のストレージ・エンティティを含む Snapshot コピーに接続できます。指定したデスティネーション名が現在使用されている場合や、マウントポイントとして使用されるファイルシステム名がある場合は、このコマンドは使用できません。

デフォルトのマウント「QIO」オプションを使用してマウントされた VxFS ファイルシステムを含む Snapshot コピーに非発信ホストから接続する場合は、Veritas File Device Driver（VxFDD）用の Veritas ライセンスをインストールする必要があります。

手順

1. 次のコマンドを入力します。

```
`* SnapDrive snap connect-snapname fspec_set[fspec_set...] - snapname_long_snap_name_[-
igroup_ig_name_[ig_name...]] [-autostrine] [-autorename] [-nopersist] [{-reserve | -noreserve}] [-readonly]
[-split]`
```

上記の使用方法では 'fspec_set は次の形式になります

```
{ -dg|-fs|-hostvol} src_file_dspec[dest_file_dspec][{-dvmd|-destvg}_ddgname_] [{-dlv|-desv}
lvname`
```

このコマンドは '常に接続するストレージ・エンティティの名前で開始する必要があります（たとえば '-ddg'-hostvol'-fs'）NFS マウントポイントを指定する場合は '同じコマンド・ラインで非 NFS エンティティ（-vg'-dgd'-fs'-lvol'-hostvol）を指定することはできません

SnapDrive for UNIX では、指定した LUN のクローンを作成し、新しい場所に接続します。

次のコマンドラインでは、ディスクグループを接続し、デフォルト名をデスティネーション名として使用します（つまり、ソース名からディスクグループが作成されます）。

```
# snapdrive snap connect -vg vg1 -snapname
filer1:/vol/vol1:vg1snapshot
connecting vg1:
LUN copy vg1_lun1_0 ... created
(original: filer1:/vol/vol1/vg1_lun1)
mapping new lun(s) ... done
discovering new lun(s) ... done
Importing vg1
```

次のコマンドラインでは、ディスクグループと単一のホストボリュームを接続します。デスティネーションホストボリュームとディスクグループの名前も指定します。

```
# snapdrive snap connect -lvol vg1/vol1 vg1copy/vol1copy -snapname
filer1:/vol/vol1:vg1snapshot
connecting vg1:
LUN copy vg1_lun1_0 ... created
(original: filer1:/vol/vol1/vg1_lun1)
mapping new lun(s) ... done
discovering new lun(s) ... done
Importing vg1copy
```

次のコマンドラインでは、1つのディスクグループを2つのLUNと2つのファイルシステムに接続しています。各ファイルシステムのデスティネーション名、いずれかのファイルシステムのホストボリューム、および両方のファイルシステムのディスクグループを指定します。

```
# snapdrive snap connect -fs mnt/fs1 /mnt/fs1copy -destvg vg1copy \
-fs /mnt/fs2 /mnt/fs2copy -destlv vg1copy/vol2copy -destvg vg1copy
\ -snapname filer1:/vol/vol1:vg1snapshot
connecting vg1:
LUN copy vg1_lun1_0 ... created
(original: filer1:/vol/vol1/vg1_lun1)
LUN copy vg1_lun2_0 ... created
(original: filer1:/vol/vol1/vg1_lun2)
mapping new lun(s) ... done
discovering new lun(s) ... done
Importing vg1copy
```

次のコマンド・ラインを使用すると、2つのファイル・システムがディスク・グループに接続されるため、`-autoexpand` オプションが含まれます。デフォルト名がデスティネーション名として使用されます（つまり、ソース名から作成されます）。

```
# snapdrive snap connect -lvol mnt/fs1 -snapname
filer1:/vol/vol1:vg1snapshot \
-autoexpand
connecting vg1:
LUN copy vg1_lun1_0 ... created
(original: filer1:/vol/vol1/vg1_lun1)
LUN copy vg1_lun2_0 ... created
(original: filer1:/vol/vol1/vg1_lun2)
mapping new lun(s) ... done
discovering new lun(s) ... done
Importing vg1
```

次のコマンド・ラインは '2つのファイル・システムと2つの LUN を持つディスク・グループを接続する際に `-autorename` オプションを含みます

```
# snapdrive snap connect -fs mnt/fs1 -snapname
filer1:/vol/vol1:vg1snapshot \
-autorename
connecting vg1:
LUN copy vg1_lun1_0 ... created
(original: filer1:/vol/vol1/vg1_lun1)
LUN copy vg1_lun2_0 ... created
(original: filer1:/vol/vol1/vg1_lun2)
mapping new lun(s) ... done
discovering new lun(s) ... done
Importing vg1_0
```

次の例では、LVM スタック上に作成されたファイルシステムとディスクグループを使用して Snapshot コピーに接続します。

```
# snapdrive snap connect -fs /mnt/jfs1 /mnt/jfs1_clone -snapname
snoopy:/vol/vol1:snapLvm -autorename
connecting lvml:
LUN copy lunLvml_0 ... created
(original: snoopy:/vol/vol1/lunLvml)
mapping new lun(s) ... done
discovering new lun(s) ... done
Importing lvml_0
Successfully connected to snapshot snoopy:/vol/vol1:snapLvm
disk group lvml_0 containing host volumes
jfs1_SdHv_0 (filesystem: /mnt/jfs1_clone)
```

次の例では、ファイルシステム 1（fs1）はストレージシステム 1 に、ファイルシステム 2（fs2）はストレージシステム 1 に、ストレージシステム 2 はパートナーストレージシステムであるストレージシステム 2 にそれぞれ存在します。ファイルシステム 3（fs3）は、HA ペアの一部ではないストレージシステム 1、パートナーストレージシステム 2、およびストレージシステム 3 に配置されます。追加のファイル・システム fs4 は 'すべてストレージ・システム 4 上に存在します

次に、fs1、fs2、fs3、および fs4 の Snapshot コピーを作成するコマンドを示します。

```
snapdrive snap create -fs /mnt/fs1 /mnt/fs2 /mnt/fs3 /mnt/fs4
-snapname fs_all_snap
```

次のコマンドでは、宛先ストレージシステムの fs1 と fs2 を接続します。fs1 と fs2 の両方が HA ペア上に存在するので、次のコマンドを 1 つ実行して復元できます。

```
snapdrive snap connect -fs /mnt/fs1 /mnt/fs2 -snapname fs_all_snap
```

次のコマンドは fs4 をリストアします。

```
snapdrive snap connect -fs /mnt/fs4 -snapname fs_all_snap
```

このファイルシステムはストレージシステム 1、ストレージシステム 2、およびストレージシステム 3 に存在するため、SnapDrive for UNIX は、デスティネーションストレージシステムの fs3 に接続できません。

LUN 以外の共有ストレージエンティティの Snapshot コピーへの接続

lun snap connect コマンドを使用すると、SnapDrive 以外の共有ストレージ・エンティティの Snapshot コピーに接続できます。

手順

1. 次のコマンドを入力します。

```
* SnapDrive snap connect_fspect_set_[fspec_set...] - snapname_long_snap_name_*
```

```
*fspec_set[fspec_set...] - snapname_long_snap_name_[-deviceType shareed] [-split] *
```

この構文では `fspec_set_dis: {-dg| -fs}_src_file_spec[ddest_file_spec][-destd_dg_name_]` を指定します

著作権に関する情報

Copyright © 2023 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。